

2020年5月19日

沖縄県

知事 玉城 デニー 様

教育長 金城 弘昌 様

沖縄県高等学校障害児学校教職員組合
執行委員長 仲宗根 司

沖縄県教職員組合
中央執行委員長 佐賀 裕 敏



新型コロナウイルス感染症禍の学校再開にともなう要請書

平素から沖縄県の教育の発展並びに教職員の勤務条件改善にご尽力されていることに深く敬意を表します。

さて、新型コロナウイルス感染症防止に係る沖縄県実施方針により、5月21日から県立学校の再開が発表されました。国及び沖縄県は、経済活動再開に向け、5月末までとっていた緊急事態宣言の解除を決定しましたが、引き続き感染防止のとりくみがなされる中での学校再開になります。

学校を感染経路とさせないために、学校における労働安全衛生体制の確立は急務です。また、学校再開後は通学方法や授業形態、教職員の働き方等において様々な課題が出てくるのが予想されます。各学校において教職員の声が反映され、学校の安心・安全が守られるよう、大胆な財政支援、条件整備が不可欠です。

つきましては学校再開に関わり、児童生徒、教職員の命と健康を守ることを第一に、学校の安心・安全の確保のため、下記について要請します。

記

1. 児童生徒、職員用のマスク、消毒液、非接触型体温計等を確保すること。(政府から学校に配布されているマスクは髪の毛の混入や変色など不良品がかなり有ることが報告されている)
2. 学校給食を早期に完全実施すること。
3. 公共交通機関を利用する生徒、職員の時差通学(通勤)を認めること。
4. 児童生徒の十分な心のケアを行うため、相談体制が構築できるよう支援するとともにSC、SSWの配置を拡充すること。

5. 特別支援学校においては、スクールバス通学の過密状態を解消するため、複数回運行等の措置を講ずること。また、「3密」状態が危惧される寄宿舎については感染防止の指針が実態に即しているか検証するとともに、寄宿舎の要望に沿った必要な衛生資材を確保すること。
6. 生徒の進路を保障するため、就職・進学のための試験の時期、内容、方法等について休業による影響を配慮したものとすよう関係機関に働きかけること。
7. 保護者の経済状況の悪化に即応して学校徴収金等、校納金の減免措置を講ずること。特にアルバイト停止等により校納金（給食費含む）が納入できない定時制に通う生徒等についても同様の措置を講ずること。
8. 保健室で体調の悪い生徒に対応する養護教諭の感染リスクを回避するため必要な衛生資材を確保すること。とりわけ児童生徒の健康観察、体調不良者への応対、心のケア等による養護教諭の負担過重が懸念される。適宜、要望を集約するとともに養護教諭が疲弊しないような措置を講ずること。（別紙：「養護教諭の声」参照）
9. 教職員の勤務については、基本的な感染症対策を徹底するとともに、引き続き、体調が悪い職員、妊産婦、基礎疾患のある職員が休みやすいような環境をつくること。
10. 感染症対策にともなう学校（保育園含む）等の休業により子の世話をを行う職員の勤務について、特別休暇等の措置を継続すること。また、通所介護施設等に通えない親の世話などにも適用すること。
11. 感染リスク回避のため少人数授業を推進する必要があることから、教職員の加配措置を早急に行うこと。学校再開後は教職員の連続授業、週の持ち時間数の変動、会計年度任用職員（非常勤講師）の授業時数増が懸念される。早急に勤務実態を把握し、教職員の負担増にならない方策を講ずること。特に複数校かけ持ちの会計年度任用職員の働き方については本人の意思を尊重すること。
12. 長期休業期間を短縮し授業を行う場合、教職員が授業に専念できるよう経年研修等の諸研修を削減すること。また、学校休校期間中の自宅学習（オンライン授業、課題）を授業時数に加味する等、児童生徒・教職員の負担が過重とならないよう各学校に周知すること。
13. 週休日である土曜日に授業を行う場合、通知（教県第222号）で示された条例による勤務日及び勤務時間の振替が各学校において適切に行われているか、勤務実態の把握に努めること。

以上

新型コロナウイルス感染症対策に対する県立養護教諭の声

コロナに関連して生じた業務はどの学校でも養護教諭への負担が増していると思います。

感染予防については学校でできる範囲は限界があります。誰もが経験していない事態の中で、生徒や職員の安全、養護教諭自身の安全を守るにはどうしたらいいのか悩んでいます。登校再開後は新たに問題が出てくるのではないかと懸念しています。

<県の指針マニュアルの作成>

学校における COVID-19 対策に関する留意事項というか、方針を、教育庁の方でまとめて示してもらえると職員に周知しやすいです。大阪市教育委員会が4月に出した「学校園における新型コロナウイルス感染症対策マニュアル」のようなものがあれば、全職員に伝えやすいと思います。管理職の危機管理意識が低くて保健室の対応方針について理解が得られないため何度も説明しなければならず、大きな負担になっています。

県から具体的な指針のマニュアルが欲しいです。大阪市のマニュアルを参考にしていましたが、保護者宛の通知文例などもあるし、様子見で疑いの子が出た場合は快復して翌々日に登校など具体的な目安がしっかりしています。

<施設消毒の準備・実施にかかる労力>

登校再開後の大きな悩みは消毒です。アルコール消毒液もなかなか入手しづらい状況なのに、1日1回以上施設の消毒をするよう登校再開ガイドラインにあります。次亜塩素酸ナトリウムを使うと手袋や水拭きが必要になり、労力がかかります。水拭きをきちんとしないとハイターの匂いが残るといふトラブルもあると聞きます。また、職員だけでは実施が難しいとの声があり、職員がそばについた上で生徒に実施してもらう予定です。消毒に使うペーパータオルは使い捨てが原則ですが、いつまで施設消毒が続くか分からない中、ペーパータオルを購入し続けるのは予算的に厳しいです。職員に協力をお願いして古布を集め、さらに生徒にも古布を提供してもらうよう依頼しています。

<衛生資材入手のための労力>

消毒に関しては資材自体が非常に不足しています。手袋、タオルペーパー、エタノール。次亜塩素酸 Na は消毒に手間がかかり、生徒に使用させるには不安があるので、できればエタノールで全て消毒できるのであれば、そうしたいです。全ての HR 教室、特別教室、職員室、トイレにエタノール消毒液を置きたいです。

消毒用エタノールが手に入りにくく、困っています。今は次亜塩素酸水を手指消毒と清拭用で利用していますが、いずれも、安定して供給してもらえるようお願いしたいです。

コロナに関しては、消毒液等を保健室任せなのが、負担になっている気がします。消毒用エタノールも足りないし、それを入れるボトルも足りないの、学校が再開したときに、クラスの消毒をどのように実施しようか検討中です。また、消毒液やマスクを買うのを保健室の予算で買っているのが、疑問に思っています。業者に今なら消毒用エタノールが買えると言われた時にも、保健室の予算がすでに底をつきそうなので、買いたい分を買えなかったです。

消毒用エタノールは足りないですし、体温計も非接触のものがが必要です。予算というよりは、物資が欲しいです。予算化されても、どこで購入できるのか業者探しでストレスになっています。

衛生器材が不足しているなか、感染予防がどの程度できるのか不安です。

<生徒対応について>

休校が長引いていることから強いストレスを感じている生徒も多いので、学校が始まったらメンタル面での対応へも養護教諭への負担が更に更に増えてくるのではと思っています。

特別支援学校(知的障がい)で自閉傾向の強い生徒は、いつもと違うパターンで学校が始まることに対して精神的に落ち着かなくなることが考えられ、ケガの誘因となるため、普段以上に気を配る必要があります。また、生徒へのマスクの着用の徹底が難しく、学校での感染予防に対して保護者から不安の声もあります。症状がある生徒は自宅療養してもらうことを徹底しています。空き教室がほとんどないため、発熱時の待機場所に困っています。

医療的ケアを必要とする生徒が在籍しており、医療的ケアを実施する際は不織布マスクのみでフェイスシールドも防護服もありません。基礎疾患がある生徒もいるため、症状がある生徒は自宅療養してもらうよう保護者へ協力をお願いしています。迎いの保護者や外部からの来校者も症状がある場合は来校を控えるよう周知しています。

特別支援学校では、肢体不自由の生徒や自閉症のある生徒など、密接に関わらないといけない場面が多々あり心配です。歯磨きケアもしぶきが飛びますし、トイレ介助、オムツのケアなどもありますのでフェイスシールドがほしいです。自閉の生徒はマスク着用の徹底が難しかったり、職員がマスクをすることで口が見えなくなることへの不安で職員のマスクを外そうとすることなどが考えられます。寄宿舎での生活(体調チェックや入浴の介助、洗濯物の管理など日々の清潔管理や建物の消毒等)やデイサービスとの情報共有も必要になります。

聴覚障害のある生徒について、全職員・全生徒がマスクを着用していることで、口の動きが見えなくなるため配慮が必要です。学校によっては、生徒の席と教壇との間に透明なシートを上からつるしたり、教科担当がフェイスシールドをしています。教科担当用にフェイスシールド等配布してほしいです。マスクをしながらだと授業がしづらいという教諭の声も多く聞きます。

マスクの件ですが、今から暑くなってくるので、マスクをしない生徒の対応に追われそうです。保健指導をしてもマスクをしない生徒やマスクを持っていない生徒(経済的な理由も含めて)が出校日でもいました。政府からのマスクは配布しましたが、もう無くしたとか捨てたとか...いました。学校でもらえると思って準備しない生徒が出そうで学校再開が不安です。キッチンペーパーやコーヒーフィルターで自分で作成させようかと思っていますが、その対応でいいのか迷っています。

コロナの疑いがある生徒は保護者が迎えにくるまで別室待機が県からは言われていますが、現実問題場所もなく、保健室内の棲み分けで感染が防げるのか不安です。

登校後に発熱した等の生徒がいた場合、保健室内での感染を防ぐため、別室で保護者の迎えを待ってもらおうと考えていますが、学校の構造上、その場所の確保が難しいです。保健室から遠い場所に待機させるのは管理上問題がありますし、屋外の風通しの良い場所で待機させようと思っても熱中症の心配もあります。養護教諭自身もマスクのみではなく、自分たちでフェイスシールドを作った方が良いのか悩みます。

微熱も含む発熱や風邪症状がある場合は、出席停止で自宅療養してもらったり、早退してもらうこととなります。しかし、休校が続いたことで学習の遅れに対する不安の声が多く聞かれます。学習不安によるストレスも大きいので、自宅で療養しても学習の保障ができるような仕組みを作ってほしいです。そうでないと、症状があっても勉強に遅れないようにと我慢して登校する生徒がいないか心配です。感染を予防するためには、症状がある人が外出しないのが一番大事なので、安心して自宅療養できる環境を作ってほしいです。

<スクールバスでの対応について>

スクールバスを利用して学校へ登校する生徒がいます。バスの中はクーラーをかけながら換気する予定ですが、雨の日など密集・密閉・密接を守ることは難しいです。

<政府からの布マスクへの対応について>

余剰枚数が80枚以上ありましたが、それを大きく上回る不良品があり、全校生徒へ配布できず、先に2つの学年のみにしか配布できていません。不良品について、変色・虫混入・しみ・カビ・毛付着・糸くず付着・ほこり付着・ほつれ等製法不良・その他に分けて枚数を報告しなければならず、これに労力を割かれたことについても疑問を感じます。

<健康診断の実施について>

健康診断をどのように行っていけばいいか不安なので、マニュアルが早く欲しいです。それがあれば、各学校で統一した対応ができると思います。

健康診断は4月～5月初旬を予定していたのですべて延期することになりました。特に、内科検診と歯科検診は生徒の口の中を診るため、医師、歯科医師にとってリスクが高く負担が大きいです。無症状でも感染の可能性があるため、万が一、医師や歯科医師が学校検診で感染した場合、病院を休診しなければならないため、学校検診への協力が不安を抱えていらっしゃる医師、歯科医師もいると聞きます。学校医より内科検診は今年度の検診に限り、口の中を見たり、目や鼻に触れることはしない形での実施を考えていると聞きました。学校歯科医より歯科検診は、実施の際には歯科医師側から扇風機を当てて、風の流れを作るなど、どのようにしたら感染リスクを下げるができるか検討されています。

また、例年検診のために確保できる時間が少ないため、密の状態でした。密にならないように生徒を待機させると、例年と比べてどれだけ時間がかかるか予測しづらく計画が立てづらくなります。学習が遅れている中、検診実施のために例年以上の時間を確保することができるか、また、校内で時間の確保ができた場合も医師や歯科医師がその時間対応可能か調整が必要となります。現在多くの学校が検診実施の目処が立

たず無期延期となっていますが、学校再開後に日程調整や実施方法の検討、実施要項の作成をしなければなりません。登校再開後の生徒対応等多忙な中で、学校内での調整、医師や歯科医師、尿検査・心電図・胸部X線の検診業者との調整をしなければならないのは大きな負担です。

< 1人配置の養護教諭の精神的負担 >

一人制ですぐに相談できる相手がいないため、業務量も多いですが気持ち的な負担感も大きいです。職員からの様々な不安や不満、疑問について養護教諭に向けられやすく、やり取りに疲れることがあります。感染症対策についても管理職から養護教諭に丸投げされることもあり、孤立しているように感じることもあり、精神的にかなりしんどい時期がありました。休校中も感染症対策にかなりの時間を要しているため、学校再開になると検診や生徒の相談対応など一人でこなせるのか、気が重いです。

< 部活動の安全対策 >

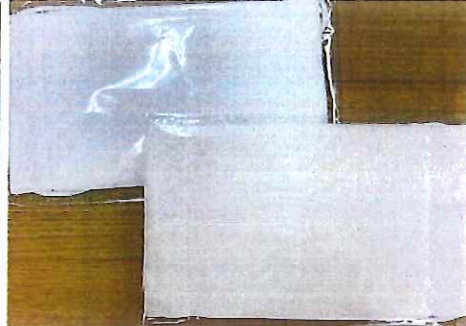
健康診断を延期しているため、検診を受けていない中での激しい運動については懸念があります。例年、健康診断の結果により運動制限となる生徒はいます。健康診断(特に心電図検査・内科検診・尿検査)を実施し結果が出るまでは激しく体を動かすことについては慎重にしてほしいです。

また、部活動は種目にもよりますが、練習や試合が濃厚接触になるため気になります。長期間部活動をできない生徒のストレスはよく理解できるのですが、安全第一です。練習中はなるべく屋外で距離を保ち、屋内で実施の場合の換気の徹底、同じ道具を使う必要がある場合の手洗い・消毒の徹底、長時間の練習や激しい運動は避ける、更衣室や部室などに密集させないなど、安全を確保した上でないと学校内で感染が広がり、例えば生徒が無症状だったとしても生徒の家族に感染して重症化しないかなど心配です。県や教育委員会として、部活動を再開する際の安全面の徹底について文書を出してほしいです。

シミのついたマスク



変色したマスク（右下が変色あり）



毛が付着したマスク



仕分けした大量の不良品マスク



<職員の協力により集めた物品>

使い捨ての古布（ペーパータオルの代用）
20枚ずつ袋詰めし、各教室の消毒時に配布

使い終わったボトル（ボトルの代用品）
水洗いして乾燥させて使用する予定



88%のアルコールを入手できたが、ボトルがないため配布できない。
精製水が入手できないため、理科職員に蒸留水を準備してもらい70%に希釈して使用する。

